

マーシャル共和国での取り組み

野原 俊之

(17-1, マーシャル, 小学校教諭, 竜ヶ崎市立長山小学校)

はじめまして。私は、先ほど紹介にあずかりました、17年度1次隊マーシャル派遣の野原俊之と申します。どうぞよろしくお願いします。拙い発表で申し訳ありませんが、少しでも参考にしていただければ嬉しく思います。では、早速発表の方にうつりたいと思います。

まず、派遣国の概要について紹介したいと思います。私が派遣されたマーシャルなんですが、南太平洋に浮かぶ小さな島国です。無数の島が集まってできている共和国になっております。その総面積なんですが、大体霞ヶ浦位ということで、ちょっとイメージしにくいとは思いますが、とても小さな島です。「太平洋に浮かぶ真珠の首飾り」というような形容もされているんですが、とても細長い国です。写真にありますように、島には幹線道路が一本しかありません。信号もないようなとても細長い国です。一番標高が高いところでも大体10mくらいということで、地球温暖化の影響もとても受けている、そういう国です。人口は、私が派遣される前の統計ですと、約53,000人ということで、大体東京ドームに収容される人数と同じくらい、と想像していただければわかると思います。ただ、今どんどんどんどん人口が急上昇中ということで、住む場所も少なくなっているような状況になっております。海洋性熱帯気候ということで、一年中高温多湿の夏のような状態が続いています。日本統治の時代が長かったこともありまして、親日がとても多い国となっております。ここにアメダマと書いてありますが、アメダマも向こうの現地語として使われていました。他にもヤキュウとかサシミ、サルガタ、アミモノなどというふうに、日本語がそのまま現地語になっているものもあります。エンマンと書いてありますが、これは向こうでよく使われていることばでした。日本語に訳すと、大丈夫とか問題ないとかそういう意味にあたるのですが、何事もこのエンマンという一言で解決してしまうような、とてもおおらかな国民性です。ただ、これはちょっと問題あるだろうということも全てエンマンで解決してしまうので、エンマンには助けられたこともありましたが、逆に苦しめられたこともありました。南国特有の、とてもおおらかな、悪いことばでいうと、計画性がない、いいかげんなところもありました。

私は算数を教えていく要請内容で派遣されたんですが、算数に対しての学力はとても低いです。まず数というものに対しての概念がありませんので、計算をするときも指を使って足し引きをするというレベルでした。なので、例えば繰り下がりとか繰り上がりとかで10を超してしまうと指が足りなくなってしまうので、するとう計算がわからなくなってしまうような状況でした。派遣内容についてなんですが、

まず要請を受けたのは、現地教諭の指導力向上、教員向け研修会の実施、モデル授業の企画・実施、とありました。それを受けて、現地に入りまして、私の方で少し内容の見直しをして、児童の基礎学力向上、教材の開発、現地教員への働きかけ、というように噛み砕いて自分の活動に取り組んでいきました。まず、児童の基礎学力向上についてなんですが、一番ベースになったのはやはり毎日の授業です。自分は3年生から6年生まで、全部で10クラスの授業を毎日担当しておりました。一コマが45分間で行っていました。ただ、授業といってもまず全くルールがないような教室の状態だったので、ルールを整えるという条件整備のところから活動を始めていきました。例えばどんなルールを作っていたかという、まず、時間を守る。用具を大切に使う。授業中には飲食をしない。ゴミを投げ捨てない。などの、生活面についてのルール。それと学習上のルールとしては、準備をしっかり整える。人の話を聞く。挙手をして発言をする、というように、本当に基本的なルールなんですが、そのルールをきちんと整備していくことがとても大事ななということを感じました。次に指導内容の吟味なんですが、一応カリキュラムということであるんですが、担任名が列挙されているだけのカリキュラムということ、児童の実力に全く合っていないカリキュラムということだったので、その指導内容を児童の実態に即したものと編成しなおして、そして取り組んでいきました。TTの活用ということで、全ての授業は現地の教員と組んで行いました。現地の教員と組んで行うことにはいくつかメリットもありました。まず一番は、現地の教員の力を借りて細かな説明もきちんとしてもらえるということに尽きるんですが、それ以外にも、自分が授業の骨組み作りを行って行って、そして説明を現地の教員にやってもらうという形をとることによって、現地の教員も、自分で説明をしながら、指導の仕方について体得していくというようなこともありました。なので、このTTの活用ということは、自分にとっても、現地教員にとっても、双方にとって大きなメリットのある取り組みではないかなと思いますので、ぜひ活用していただければいいなと思っています。ただ毎日の授業だけでは、特に学力の不振については救うことはできませんので、補修クラス、または休業を使つてのサマースクールなども行っていきました。サマースクールについては、マーシャルという国は、6月・7月・8月の中旬までが夏季休業ということでもとても長い期間休みに入ってしまう。休みの期間、子どもたちは何をやっているかというと、特にあてもなく、そのへんをぶらぶらぶら歩いていて、ただ無駄に時間を過ごしているという状況ですので、サマースクールを開くことによって子どもたちもその無駄に過ごしていた時間を目的を持って過ごすことができたということで、学力を伸ばすという以外にも、いくつかのメリットがあったのかなと今になって思っています。

続いて行ったのが、教材作成に取り組みました。ワークシートの作成をまず行いました。現地語の説明をいれた例題をまず最初にのせて、その下に練習問題をのせていくという形で、特に重要な単元についてはこのワークシートを整備して授業の中でも活用しました。先ほども申し上げましたように、現地語の説明を入れた例題なんで

すけど、これは現地の教員が自分で授業をするときにも参考にしてもらえればいいなということも考えて、そのような例題を盛り込みました。あと補助教材もいくつか作成しました。補助教材と言っても、そんな特別なものを作ったというわけではありません。できるだけわかりやすく、そして使いやすくということを念頭において作成しました。なるべく現地教員が継続的に使えるようにということを考えながら作成しました。また日本から届けてもらった「算数セット」についてもとても効果的でした。やはり日本の算数を研究している人たちが考えて作ったものですので、とても無駄なく使いやすいものですので、ぜひ「算数セット」なんかも活用していただければ、きっと役に立つかなと思います。

続いて、現地教員への取り組みです。ワークショップ・オープンクラスなどを行いました。できるだけ現地教員のニーズに応じていくということで、現地教員の声を拾いながら、そしてその中で、本当に必要なものは何かということを考えながら行っていました。行った内容としては、例えば、黒板にはどういうふうに字を書いているのかとか、ノート指導をするにはどのようにしているのかとか、あとは、コンパス・分度器の使い方。立体について教えるときはどのような教え方が効果的なのか、などというような、日常の授業に直接還元のできるもの、または、現地の教員がとくに苦手になっていることをピックアップして行っていました。今から派遣される方も今ここで聞いていると思いますので、派遣前にどのようなことをしておいたらいいのかということについて話したいと思います。まず、情報収集を密にするということはとても大事なかなと思います。特に前任の人との連携、生の情報を仕入れるということは特に大事になると思います。次に、得意分野を再確認する。派遣される要請内容は人によって違うと思います。私は算数で派遣されましたが、例えば体育で、図工で、日本語教育で、というふうに、それぞれ要請内容違うと思いますので、その要請内容に合わせて、自分の得意分野が一体どういうことなのか、例えば体育だったら自分はということがちゃんと伝えられるのか、というようなことを再確認しておく、向こうにいったあと安心して、自信を持って取り組めるんじゃないかなと思います。

言語や生活について。今から派遣される方は、一番ここを心配してるんじゃないかなと思います。私自身も、全く英語がしゃべれるわけではなかったし、日本から離れて生活するというのも当然初めてでした。なので非常に不安はあったんですが、これらについては気づくと慣れているかなと思います。言語については、私、今でもペラペラしゃべれるというわけでは全くありません。片言のことばしかしゃべることはできませんが、一緒に生活しているうちに、だんだんだんだん、お互いの気持ちが、こう、ことばを介さなくても通じるようになっていきますし、お互いにお互いを分かり合おうという気持ちがあれば、何となくは伝わっていきますので、そんなにナーバスになる必要はないかなと思っています。生活についてももちろん風習とか、食べ物について、全然違うところもありますけど、それも半年くらい過ごしているうちに慣

れていきますので、心配する必要はないかなと思います。あとは日本文化のネタなんかを自分で用意していくと、活動とは直接関係ないかもしれませんが、人間関係づくりにはとても役に立つと思います。例えば自分が柔道ができるというのであればそういうデモンストレーションを見せてみたりとか、日本の歌、童謡なんかを歌ってあげるとか、折り紙でいくつか作品を作ってあげる。そういうことをやってあげると、それで向こうは自分に興味を持ってくれるので、きっかけ作りにはとてもいいかなと思います。ネットワークづくりなんですけど、特に派遣前訓練の時には、自分の職種以外、自分は小学校の教員として派遣されたんですが、それ以外のたくさんの職種の方と出会う機会がありますので、そういう中での出会いを大切に、それぞれの情報交換をしておきますと、自分の幅も広がりますので、いざというときに役に立つかなと思います。

続いて派遣中から帰国後のことについての話をしたいと思います。自分ができなかった反省も含めての話になってしまうのですが、まず、リアルタイムの情報発信は、できれば行ったほうがいいかなと思います。日本に帰ったあと、自分の場合、教室で、「向こうの国の様子はこういうふうだったんだよ」という過去形で話すよりも、実際に行っているときに、「今自分はこういうことをしているんだよ」「向こうの生活はこういうふうなんだよ」というふうに、現在進行形で話をした方が、より伝わると思っていますので、日々の活動で大変とは思いますが、ぜひリアルタイムの情報発信を行ってあげると、日本にいる人たちはとても助かるんじゃないかな、嬉しいんじゃないかなと思います。あとは、記録の蓄積。例えば、日記をつけたり、ブログを書いたりというふうにして、毎日の様子・活動を記録していくこともとても大事ではないかなと思います。自分の心情とか状況の変化について客観的に判断することができますので、記録を蓄積していくということは自分にとってもメリットがあると思います。データの共有。もしネットが使える環境ならば、最大限に活用してお互いのデータを送信しあうということも役立つと思います。後任との連携。自分の取り組みの様子を、できるだけ後任に伝えていくということも、お互いのためになると思います。継続的な取り組みにとっては後任との連携はとても大事になると思いますので、行える場合はぜひ行ってください。派遣中なんですけど、日本で教員をなさってる方は特に感じると思うんですが、とても自分自身が使える時間が増えますので、自分を磨くチャンスと思って、例えば語学を磨く、自分の専門性を磨く、時間を有効に活用していただきたいなと思っています。あと活動報告の準備なんですけど、日本に帰ってしまうととても時間がなくなってしまう。日々の毎日の仕事で精一杯になってしまいますので、活動報告の準備なんかも派遣中にしておくとなかなかなと思います。

最後に、活動を振り返ってなんですけど、まず、現職参加で行くと、約3ヶ月間少ないということです。それがとても、こう、後々大変かなと思います。特別なことだけをやっていくと、1年9ヶ月息が続きませんが、何かをスタートしようと思うと時間が足りなくなると思っていますので、自分で見通しを持って、大体3ヶ月後にはこうい

う姿になっているといいな、ということを思い描きながらやっていくといいかなと思います。派手さを求めずに、日ごろの積み重ねを大切にしていく。表面的な結果、例えば、点数であるとか、比較ばかりにとらわれてしまうと、その場だけの自己満足とか、あと終わってみたら結局何も残らなかったというようなことが自分自身ありましたので、確実にできるものを一つずつ増やしていくというような気持ちで、毎日の積み重ねを大事にしていくことが大事じゃないかなと思います。日本人かどうかもあるんですが、一番最初はどうしても日本人だからできるとか、自分は関係ないとか、あいつにやらしておけば自分が楽ができるというふうに現地の人からは思われていました。ただ人間関係が構築されていくに従って、日本人だからというところから、野原だからというふうに、自分の人間性、中身の方を見てくれるようになっていきます。そうなってくると活動もだんだんだんだんスムーズになっていくかなと思いますので、人間構築の部分についても大事にしながらやっていくといいかなと思います。最後に、種をまく気持ちということで、全てに結果が出るわけではありません。ただ、心をこめて努力したことは思わぬ副産物をもたらすことがあります。マーシャルでは、算数ができるようになったからといって、進学や就職につながるわけではありませんでした。ただ、算数をとおして、自分もやればできるようになるんだ、という自信をつけさせることができたかなと思います。わかる喜びをどれだけ伝えることができたか、子どもたちの顔が、目が、輝く瞬間をどれだけ作り出すことができたか。そのことを、自分自身、心の支えにして頑張ってきました。そしてその姿を、現地の教員に見せることによって、現地の教員の心の変化も少しずつではありますが見えてきたんじゃないかなって思っています。

偉そうなことも言ってしまったんですが、自分の反省も含めての発表でした。ご清聴ありがとうございました。